

船舶事故等調査報告書

平成24年9月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012神第34号	
事故等種類	運航不能（燃料油供給障害）	
発生日時	平成24年2月22日 02時42分ごろ	
発生場所	徳島県阿南市蒲生田岬南東方沖 蒲生田岬灯台から真方位167° 11.0海里付近 (概位 北緯33° 39.3′ 東経134° 47.9′)	
事故等調査の経過	平成24年3月27日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	引船 第八 寿丸、19トン	
船舶番号、船舶所有者等	273-2627岡山、有限会社前田組	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	主機 燃料配管及び主機内部が濡損	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか1人が乗り組み、転覆した小型漁船をえい航し、蒲生田岬南東方沖を約2.5ノットの対地速力で右舷船首方から風と波を受けながら北北西～北北東進中、平成24年2月22日02時42分ごろ、右舷側燃料油タンクの空気抜き管から海水が入り、主機が停止した。</p> <p>本船は、巡視艇にえい航されて阿南市富岡港に入港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北北東、風力 4～5、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1.5m</p>	
その他の事項	<p>本船は、目的地の富岡港への針路が北西方であり、北北東からの風と波をできる限り右横から受けないように航行していたが、船首甲板に波が打ち込んで滞留する状態であった。</p> <p>主機は、海水を抜いて洗浄し、部品交換の必要はなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>あり</p> <p>本船は、蒲生田岬南東方沖を右舷船首方から風と波を受けながら北進中、右舷側の燃料油タンクの空気抜き管から海水が入ったことから、燃料油タンク及び主機内部に海水が入って主機の運転ができなくなり、運航不能となったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、夜間、本船が、蒲生田岬南東方沖を右舷船首方から風と波を受けながら北進中、右舷側の燃料油タンクの空気抜き管から海水が入ったため、燃料油タンク及び主機内部に海水が入って主機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられ</p>	

る。

- ・ 荒天遭遇等により海水の打ち込みが予想される場合には、燃料及び潤滑油タンク等の空気抜き管にカバーを掛けるなどして浸水防止対策を採ること。